

「市民のための病院 良くしたい」 労働組合にはその力がある

泉佐野市職労
りんくう総合医療センター労働組合

執行委員長 常玄 大輔さん
書記長 安永 桂介さん



「3月には賃金カット問題で団交しました。要求書や抗議文も提出して、みんなとつよに市民のためにいい医療のできる病院にしたい」と語る常玄委員長（左端）と安永書記長（右から2人目）

泉佐野市立病院は、1997年9月に市街地から閑空のおひざりりんくうタウンに移転。2011年4月に独立行政法人化され「りんくう総合医療センター」となりました。救命救急をはじめ急性期医療の中核病院として、住民のための医療機関の役割を果たしています。しかし、病院当局は赤字を理由に今年4月から労使合意のないまま一方的に賃金カットを強行。「こんな理不尽は許せない、職員が安心して働けなければ患者の命を守れない」とたたかうりんくう総合医療センター労働組合を訪ねました。

何もわからないまま 組合役員を引き受けて

常玄さんは、病院がりんくうタウンに移転してから常勤パートの診療放射線技師として働き始め、安永さんと出会いました。「でも、労働組合にはすぐ加入しませんでした」。

そのわけは「労働組合が無茶苦茶したから病院の経営が悪化したと聞いていたので、そんなところに入ったら大変と思っていました」。しかし、独法化されるときに常勤職員となり、当時の組合役員から「労働組合に入った方が病院のことをいろいろ知ることができるよ」と言われて加入しました。

安永さんの労働組合との関わり

は、「放射線科の労働環境も悪かったので、「とりあえず入っておこうかな」という感じでしたね（笑）」。

そして、労働組合に加入してほどなく「組合の役員をやってくれないか」と言われ、何もわからないままに役員を引き受けました。

泉佐野市職労や 地域の仲間の支援に感謝

二人が組合役員となる前から、労働組合が毎月当局と懇談をもち、一定の労働条件改善がされていたため、りんくう総合医療センター労働組合としては数年前まで要求書も提出していませんでした。「医療部会の模擬団交や学習会が力になっていきます」と話し、「泉佐野市職労や地

域の仲間の支援が力強く、感謝しています」と声をそろえて語りま

組合員を増やそう

病院を良くしよう

最後に今後の抱負は、「自分たちの職場を良くするために声を上げることが大切だし、労働組合があるからそれができる。でも賃金カットされても、他人事のように考える人や、組合に入れば何かもらえると思ってる人もまだまだ少なくないです。そうした人も労働組合に入ってもらい、市民のための病院を良くしていくことを一緒に考えていきたいです」と、きっぱり答えてくれました。



8月4日の集会でも、組合員とたたかう決意を語る常玄委員長

大阪自治労連第30回定期大会 (9月8日・9日)



憲法と地方自治の歴史的意義を再確認



大阪自治労連は9月8日～9日に大阪市内で第30回定期大会を開催しました。代議員からは、職場環境改善に向けたたたかい、非正規労働者が安心して働き続けられる労働条件の向上をめざすたたかい、住民サービス切り捨てを許さないたたかいなどの発言が続きました。そして、憲法をいかに、住民のくらしを守る自治体本来の役割を發揮することができるよう、たたかう労働組合を強く、大きくしていく決意が語られました。これからの1年間のたたかう方針・大会宣言と特別決議が満場一致で採択され、団結ガンバローでたたかう決意を固めました。

市民のための労働組合